
過去未来のイナズマジャパン

ピース

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

過去未来のイナズマジヤパン

【Nコード】

N2056Z

【作者名】

ピース

【あらすじ】

「お前達は9年前にタイムスリップする。」
と無計画な大人達に言われ9年前にタイムスリップした天馬達、雷門イレブン。

オーガの襲来で起こった時間の歪み・・・それは10年後の未来に影響を与えようとしていた。

サッカーを救うため、過去未来のサッカー選手達が立ち向かう！

プロローグ

円堂「もうすぐお前達は9年前にタイムスリップする。」

松風「はい・・・？」

突然告げられた。

全く、無計画な大人達。

9年前、つまり円堂達がイナズマジャパンで優勝後・・・中3というわけだ。

だが、オーガが襲来したことにより未来が変わって来ている。

世界がイナズマジャパンの優勝と未来が変わると言う2つの大混乱で、サッカーに危機が迫っているらしく・・・とても2回目のフットボールフロンティアインターナショナル開催になることはなかった。

助っ人で雷門イレブンが出てほしいと。

あの鬼道でさえ忘れていたとのこと。無論、春奈もだ。

佐久間、吹雪、木暮、飛鷹、染岡も忘れていたという始末。秋や夏

未も記憶から消えたらしい。

カノン「じっちゃん！」

円堂「カノン！」

カノン「じっちゃん！準備は？」

円堂「大丈夫！心配すんな！」

松風「全く大丈夫じゃないです！」

神童「OP使って、ツッコミにくいこと言わないでください！」

円堂「悪い悪い。じゃあ行ってくれ。」

速水「なんも準備してないですよー……。」

まあそれは全員。

円堂「なんとかなるさ！」

松風「ええええっ！？」

結局、全員乗せられ、「無計画な大人達」によって八チャメチャなタイムスリップになったのだ。

松風「わぁー、かつこいいい！」

西園「生で見るイナズマジヤパンの人達の必殺技はかつこいいいね！」

影山「ほんっと！かつこいいい！」

空野「天馬達もあれくらい頑張つてね。」

おおはしゃぎの一年。

一部だが。

狩屋「あーあ、ちゅーがくせーなのにあんなに興奮しちゃって……
嫌だ嫌だ。」

手をヒラヒラとする狩屋。

剣城「……………」

全く動じない剣城。

神童「じゃあ挨拶するか。」

霧野「待てよ、神童。……未来から来たなんて信じてもらえるのか？」

カノン「それは心配ないですよ。」

とカノン。

確かに一度は雷門に来ているのだから信用してくれる。

鬼道「ん？お前達は？」

鬼道に気付かれた。

鬼道「物凄い視線を感じたんだが。」

神童「え、えつと……。」

カノン「9年後の未来の雷門の生徒です。」

詳しい経緯を話すカノン達。

円堂「なるほど……?」

風丸「?つて……。」

鬼道「わかってないようだな。」

円堂「とりあえず！お互いなことをわかるにはサッカーだ！サッカー
ーやるっぜー!」

神童「円堂さんは相変わらずだな。」

鬼道「円堂っ！！いきなり、サッカーなんて……。」

浜野「ちゅーか、いいんじゃないね？」

速水「え？は、浜野くん！」

錦「これはやるぜよ！」

速水「ええー！ー！！イナズマジャパンみたいな強力な選手に合うわけがないじゃないですかー！ー！」

実に正論。

松風「……化身！化身を使えば……！」

倉間「お前が化身を使えるからって軽々しく言うな。化身だって体力を大幅に使う。」

確かにである。

化身使いが4人いるとはいえど、イナズマジャパンが多く所属するチームは、まず必殺技が協力なのである。

円堂「やるか？」

剣城「ここはキャプテンに決めてもらったらどうですか？」

これまた正論。

神童「やるう、円堂さん達から吸収するものは多いし、円堂さんの
言うとおり・・・サッカーで心を通わそう。」

円堂「決定だ！」

すると突然、

雲行きが怪しくなる。

円堂「あ、ちよつどいいや。」

雲行きが怪しいのにちよつどいいとは・・・？

神童「円堂さん？」

トラックが止まる。

そこに

源田「なんだよ、面白そうなことになってるな。」

佐久間「俺達も混ぜてくれ。」

不動「……。」

現れたのは帝国学園。

円堂「よう！お前に一緒にサッカーやろっぜ！」

吹山「相変わらず雷門は……。」

基山「やあ、円堂くん。」

吹雪「僕も帝国にいるんだ。」

飛鷹「円堂さん……。。」

円堂「ヒロト！吹雪！飛鷹！」

すると円堂は満面の笑みで……

円堂「まずは帝国と戦うか？」

新生雷門「ええええー！ー！っ！！！！！」

帝国VS新生雷門！

円堂に「無理矢理」

帝国との試合となった。

松風「うわぁ、緊張するう。」

キックオフは雷門から

倉間「ホーリーロードみたいにサクッと勝ち抜いちゃえばいい。」

不動「ふ、甘いんだよなア。」

ボールをスライディングでボールを奪い・・・

基山「パスを！」

不動「……………」

佐久間「不動!!!」

前には剣城が、後ろには倉間が

不動「ち!!!はいよ!!」

ヒロトにボールを渡す。

基山「ありがとう。」

ドリブルしていく。

松風「行かせないぞ!!」

基山「……………佐久間くん!!」

佐久間にボールが渡った。

佐久間「行くぞ、ツインブースト!!」

そろった。

狩屋「行かせるか!ハンターズネット!!」

しかし、破られ…………

三国「フェンス・オブ・ガイア!!」

止められなかった。

神童「なんて巧みな連携なんだ！追い付けない。」

再び、キックオフは雷門。

ミッドフィールダーが先回りする。

剣城と倉間の連携で相手ミッドフィールダーを惑わす。

倉間「このまま・・・」

吹雪「アイスグラウンド！！」

地面から凍り付き、倉間を凍らせた。

倉間「うわぁ？」

吹雪はボールを奪う。

神童「行かせない！」

激しいボールの取り合い。

松風「キャプテン！」

神童「うおおお！！」

高いパスをした。

吹雪「しまった!」

松風「マツハウインド!」

飛鷹「はあああ!真空魔V2!!」

松風のシュートを止めた。

吹雪「ナイスだよ、飛鷹くん!」

ボールを吹雪に渡す。

吹雪「行くよ!」

華麗な動きで選手を突破。

基山・吹雪「ザ・バース!!」

ドオオオオン!!

再び得点。

神童「ダメだ、実力が違いすぎる!」

キックオフは雷門。

倉間「この試合・・・勝てんのか？」

剣城「・・・。」

剣城がドリブルする。

佐久間「行かさない。」

剣城「チツ・・・松風！」

後ろにパスを渡す。

松風「うおおお！」

吹山「やらせるか！」

松風「そよ風ステップ！」

かわした。

不動「少しはやるみたいだな。」

松風「そよ風ステップ！」

不動「負けるか・・・！！！？？」

不動もスツ飛んでいく。

吹雪「もうやらせないよ、アイス・・・」

松風「キャプテン！」

神童にパスを渡し、

神童「神のタクト！」

導いていく。

飛鷹「行かせない！」

神童「プレスターン！」

かわした。

神童「フォルテシモ！」

源田「ドリルスマツシャー！」

止めた。

松風「そんな・・・キャプテンのシュートが止められるなんて・・・」

源田「これくらいのシュートなら百回来ても止められるぜ！」

.....

沈黙が続く。

神童「そうだな。」

神童が沈黙を破った。

神童「剣城を得点を中心に！！剣城ならきつと決められる。」

剣城「.....いいですよ、キャプテン。ただ、得点した時、マークをかけられる可能性が。」

神童「それは俺と天馬と錦の化身でなんとかする！」

剣城「もし、俺や化身の技が効かなかったら.....他、どうするですか？」

言葉につまる神童。

松風「剣城！なんとかなるさ！！！」

剣城「.....。」

後半が始まる。

剣城「松風！」

松風「ああ！」

いきなりパスを渡した。

佐久間「いきなりは行かせない！・・・

松風「・・・そよ風ステップ！」

佐久間「わあ！！！」

風に飛ばされた。

佐久間「くっ・・・。」

不動「同じ手が何度も通用すると思うなよ！」

松風「・・・浜野先輩！」

浜野にパスした。

浜野「イエイ！波乗りピエロ！」

ボールに乗り水が吹き出す。

吹雪「アイスグラウンド！」

浜野「ちょわあああ!？」

神童「落ち着け!浜野!あそこにボールを！」

神のタクトで導いた。

浜野「よいしょっ！」

神童がボールを拾いに行く。

飛鷹「行かせるか！」

倉間「それはこっちのセリフさ。」

飛鷹「!?!しまった！」

倉間にマークされた。

神童「剣城!！」

剣城にボールを渡す。

剣城「……デスドロップ!!!！」

デスドロップを放った。

源田「ドリルスマシャー!!!」

ドドドドド!!!

源田「ぐうう……。な、何……。!?……。うわああああ!

初得点。

松風「あ……。やったあ!すごいよ、剣城!!!」

剣城「……。」

無愛想な剣城につこり笑う。

基山「やるみたいだね。」

佐久間「次はそうは行かせないけどな。」

神童「逆転するぞ!!!」

キックオフは帝国

基山「次はこつちの番だよ！」

攻めあがる基山。

神童「行かせるか！ディフェンスを固めろ！」

しかし柔軟な動きにかわされた。

吹雪「ヒロトくんは柔軟な動きが最大の持味だよ！」

神童「行かせるな！」

霧野「ザ・ミスト……。」

しかし、何事もないように突破された。

狩屋「ハンターズネット！」

しかしハンターズネットをかわし……

基山「天空落とし！」

ドーン！！！！

神童「くう……！！」

松風「そんな……。」

試合終了。

円堂「すごい戦いだっ たな！」

風丸「ディフェンスにかなりのむらがあつた……。」

鬼道「ああ、ディフェンダー……お前達の連携がまるでない。もつと頑張れ。」

狩屋「チツ……。わかりましたよ、鬼道さん。」

霧野「おい、狩屋！もつと真剣に……。」

狩屋「もともと、霧野先輩がちゃんとした技をもつてないからいけないんですよ。ザ・ミストなんて低レベルな技……。」

霧野「なんだと!?!」

豪炎寺「まるで昔の鬼道と不動みたいだ……。」

不動「はあ?」

鬼道「豪炎寺がそんなことを・・・。」

春奈「皆ーっドリンクよー！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2056z/>

過去未来のイナズマジャパン

2011年12月14日18時51分発行